

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02381

研究課題名(和文) 寄進とワクフの国際共同比較研究：アジアから

研究課題名(英文) Waqf and Donation in Asia: A Joint International Study

研究代表者

三浦 徹 (Miura, Toru)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：00199952

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,900,000円

研究成果の概要(和文)：自己の財産を他者に寄付・寄進するという行為は、古代から世界の諸地域に広くみられる行為であり、とりわけ中近世の時代に盛行した。本研究では、海外の寄進研究のグループと連携して国際研究集会を開催し、イスラームのワクフを基点としつつ、ヨーロッパ、中東、中央アジア、南アジア、東南アジア、中国、日本の寄進と比較することによって、その目的、受益者、管理運営、社会的効果の異同を分析した。いずれの地域においても、個人的動機(善行・救済、名声、墓所、財の継承)と社会的利益(宗教・社会施設、慈善、経済インフラ)の要因が確認され、両者が混淆していること一利己的であり利他的であるところが寄進の原動力となっていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

フランス、ドイツ、アジアの寄進研究グループと連携して5回の国際研究集会を開催し、地域・時代を横断しつつ、観点を共有した比較研究を行った。ヨーロッパの研究グループがカバーできていなかった、中国および日本の寄進研究を提示することで、ワクフと日本中世の寄進の近似性(家族への財の継承)、中国とヨーロッパ・イスラーム(一神教世界)の自他の観念の違いなど、新たな論点を発見できた。現在イスラームのワクフ制度は公益財団の形をとって復活しており、寄付や互助のあり方は人類史を通貫する問題である。研究成果は、国際学術誌で発表するとともに、英文論集を公刊する予定で、国内の学術誌や図書においても広く成果を公表している。

研究成果の概要(英文)：Donation of one's own property to others had been widespread in various regions of the world since ancient times, and especially became popular in the Middle Ages. In this research, we held international research meetings in collaboration with overseas research groups of donation, focusing on Islamic waqf and comparing it with donations in Europe, the Middle East, Central Asia, South Asia, Southeast Asia, China, and Japan. Analyzing the differences in purpose, management, and social effects of donations in each region, personal motives (good deeds for salvation, fame, tomb construction, transfer of property) and social benefits (religious institutions, charity, economic infrastructure) were commonly discerned. Mixture of personal motives and social benefit, that is, being both egoistic and altruistic must have been the appeal of donation. In modern times when egoism and altruism were being separated, the waqf system and similar donations began to be reformed.

研究分野：イスラム史・中東地域研究

キーワード：寄進 ワクフ 都市 イスラム 慈善 宗教施設 相続 比較

## 1. 研究開始当初の背景

寄付・寄進という行為は、人類史上広くみられる現象であり、富の再配分や金融や福祉の役割を果たし、寄進財をめぐって国家から独立性をもつ社会組織が形成された。本研究では、イスラーム地域に広がるワクフという寄進制度を、ヨーロッパや東アジアを含め、地域や時代をこえて比較することによって、ワクフの特徴や変化を明らかにするとともに、世界史（人類史）における寄付・寄進の意味と変化を明らかにする。

## 2. 研究の目的

国際的な研究者ネットワークにもとづく、世界大の比較研究。

ワクフ・寄進を「所有、契約、市場、公益」の観点（分析軸）から比較し、そのメカニズムの分析モデルを構築する。

日本と中国の寄進をワクフと比較することによって、日本から斬新な研究発信を行う。

## 3. 研究の方法

東アジアから中東やヨーロッパにわたる広域を視野にいれた、国際的な研究者ネットワークにもとづく、世界大の比較研究。共通の事象(ワクフ・寄進)をテーマとする人類社会史(世界史)の叙述につながる。

比較研究の分析モデルの構築：寄進にかかわる質問票（目的、寄進者、寄進財、受益者、管理者、法制度など）をもとに比較研究を行う。比較が事例の並列におわるのではないように、類似点や共通点について、なぜそうなのか？という原因を分析し、より原理的な（高次の）要因を追究する。またある地域における観点は、他の地域における事実の発見の道具となる。最終的には、諸地域の事例から、共通の要素群を抽出し、その構成（編成）の違いから、地域・時代による寄進の特徴や変化を説明することをめざす。

従来の比較研究は、「西洋」をモデルとし東洋の地域と対比し、その独自性を主張する傾向が強かった。本研究では、東アジア（日本と中国）の寄進の研究蓄積を比較の座標に用いる。これによって、日本史の、また、日本からの斬新な研究発信をめざす。

## 4. 研究成果

### (1) 国際研究集会の開催

クアラルンプール国際会議：国際イスラーム大学（マレーシア）との共同開催

#### **International Conference of History and Governance of Awqaf**

2018年7月4-5日

日本では寄進の専門研究者が少ない東南アジアや南アジアのセッションを設け、研究者のネットワークを拡大した。

基調講演 2名（一名は三浦徹）

**Session 1: Islamic Theory and Philosophy of Waqf, Session 2: Waqf Institutions and Practices in Subcontinent and Bangladesh, Session 3: Waqf Institutions and Practices in Comparative Perspectives, Session 4: Waqf Institutions and Practices in British Colonial Experiences, Session 5: Waqf Institutions and Practices in Comparative Perspectives, Session 6: Waqf Institutions and Practices in Indonesia, Session 7: Waqf Institutions and Practices in Malaysia** 計発表 27名（日本側 3名）

主要な発表は、*Intellectual Discourse*, vol. 27 (2019)に収録・公刊されている。

東京国際ワークショップ **Encounter of Comparative Studies in Europe and Japan**

2019年2月17日

ベルリン・フンボルト大学(ドイツ)の寄進研究グループの3名の研究者(ブリル社の *Endowment Studies Journal* の編集委員)を招聘し、研究ワークショップを実施した。

招聘者：TILLMANN LOHSE (Humboldt University of Berlin), ZACHARY CHITWOOD (University of Mainz), IGNACIO SÁNCHEZ (University of Warwick)

シンガポール国際シンポジウム 国立シンガポール大学アジア研究所との共催

#### **CROSS-CULTURAL AND COMPARATIVE STUDY OF DONATION, ENDOWMENT AND BENEFIT**

2020年2月12-13日

ベルリン研究グループが参加し、ヨーロッパ、中東、南アジア、東南アジア、中国、日本、との地域（文化）間比較を行った。

**PANEL 1: CHRISTIAN SOCIETIES, PANEL 2: CHINESE AND JAPANESE SOCIETIES, PANEL 3: ISLAMIC SOCIETIES, PANEL 4: HINDU AND SOUTHEAST ASIAN SOCIETIES**, 計発表 12名（日本側 4名）

日本側研究者の発表

**Kiyoshi Jinno, Kishin Donation to Buddhist Temples and Shinto Shrines in Medieval Japan: Legal and Social Perspectives**

**Kentarō Matsubara, Fictitious Ancestors, Fictitious Marriages, and Fictitious Governments:**

## **Death and Lineage in Qing South China**

**Nobutaka Takaiwa, Waqf Reform in Modern Egypt: Focusing on the Discussion about Family Waqf**

**Ryuichi Sugiyama, Waqf and Moderation in Iran: A Case of the Mausoleum of Imam Reza under the Islamic Republic of Iran**

ベルリン国際会議

Conference on “Interreligious Founding” at Humboldt University of Berlin

2021年4月8 - 9日（オンライン開催）

5セッション計発表14名（日本側3名）

研究発表は、*Endowment Studies Journal*, 2023に収録・公刊される予定である。

東京総括研究集会 オンライン開催

**Strategy of Donation (Endowment): Its Purposes and Social Benefits in a Comparative Perspective**

2022年2月12-13日（オンライン開催）

国際共同研究として連携する、ドイツ・ベルリン・フンボルト大学、フランス・エクス・マルセイユ大学、国立シンガポール大学らの研究チームが参集し、宗教寄進のストラテジーを主題とする比較研究の総括集会を開催した。以下海外研究者の発表を記す。

**Session 1 : Regional and Cultural Variety of Donation Strategy**

**Zachary Chitwood (University of Mainz), Sovereign Patronage and Annuity Endowments in the Byzantine World**

**Sanjukta Datta (Ashoka University), Maintaining the Bridge of Merit: Kingship and the Perpetuation of Land Endowments in Premodern India**

**Ignacio Sánchez (University of Warwick), Everlasting or Conditional Charity? Uses and Purposes of Movable Waqfs in Pre-Modern Islam**

**Session 2 : Purposes and Social Benefits of Donation: Comparative Perspectives by Japanese Team**

**Session 3 : Changing Donation Strategy into Modern and Contemporary Times**

**Tillmann Lohse (Humboldt University of Berlin), A Proposal for a Universal Taxonomy of Foundations**

**Randi Deguilhem (Aix-Marseille University), Institutionalizing Personal Network Strategies via Choice of Waqf Beneficiaries: Examples from the Ottoman World**

**Magda Ismail Abdel Mohsin (Global University of Islamic Finance), Sadaqah and Waqf and their Social Impact (The Case of Rida' al Walidain Organization/Sudan)**

## **(2) 寄進の比較研究の分析モデルの構築：2022 東京総括研究集会から**

### **2.1 情報と観点の共有**

総括研究集会の趣旨（寄進のストラテジー）と比較の観点の共有のため、参加予定者に、研究代表者の当該論考を事前配布し、比較の観点を提示した（和文、英文）。

つぎに、日本側研究分担者・協力者から、下記の項目について、専門とする地域の状況について、アンケート（質問票）形式で情報を収集し整理した。その比較表を参加者に事前に配布した（和文・英文）。地域区分は、西ヨーロッパ（中世）、ビザンツ、アラブ、イラン、トルコ（オスマン帝国）、中央アジア、中国、日本（中世）と設定した。

### **1) 寄進という制度**

**Q1-1** 寄進に相当する当該地域における用語およびその原義はなにか。

**Q1-2** 寄進の対象となる財産は、どのようなものか。

**Q1-3** 寄進の受益者は、だれか。

**Q1-4** 寄進に関する規定を定めた法があるか。

**Q1-5** 寄進の手続きは、どのようなものか（当事者以外の承認の手続きがあるかどうか）

### **2) 寄進の実態**

**Q2-1** 寄進の起源はいつごろ、どのような事例があるか。

**Q2-2** 寄進が盛んになるのは、いつごろ（何世紀）か。盛んとなる理由は、どこにあったのか。

**Q2-3** 寄進の基本的なパターン（寄進者、寄進対象物、受益者/目的）はどのようなものだったか。

**Q2-4** 寄進の社会的な広がりやどの程度だったか、それを示す資料があるか。

**Q2-5** 寄進によって、どのような社会的な変化が生じたか（社会組織や人間関係の変化など）

### **3) 寄進の目的**

**Q3-1** 個人的目的と社会的効用について、該当の有無（ないし強弱）を記入ください。

**Q3-2** 財産の継承に関して。受益者として、寄進者やその一族を指定することは可能か。その場合、遺産相続と比べて、寄進による財の継承をする違いはどこにあったか。

**Q3-3** 他者（一族外）に財を寄進するという行為を正当化（ないし推奨）とするもの（宗教、法、慣行など）はなにか。

#### 4) 寄進財の経営

**Q4-1** 寄進財の管理・経営は、だれが(どのような団体が)行ったか? 収支簿のような資料が残されているか。

**Q4-2** 国家は、寄進財の管理・運営に、関与したか。税の徴収はどのようになされたか。

**Q4-3** 宗教施設が寄進財を集積し、政治的・社会的な影響力をもった事例があるか。

**Q4-4** 寄進財を、関係者が私物化するような事例があったか。

#### 5) 特徴など

**Q5-1** 他の地域と比較して、当該地域の寄進の特徴と考えられる点はなにか。

**Q5-2** 寄進という問題に関して、面白い(珍しい、不思議だ・・)と思う事例。

**Q5-3** 寄進の比較研究によって、わかったこと(発見したこと)は、なにか。

**Q5-4** 寄進の比較にあたって、共通に議論すべき問題(論点)が他にあれば、ご記入ください。

**Q5-5** 当該地域の寄進について、代表的な研究文献を、お教えてください。

## 2.2 総括報告

以上のアンケートの回答とその整理にもとづいて、研究代表者(三浦)が、上記の事項にそって、寄進の地域間の異同と特徴について、総括的な報告を行った。

### 【寄進の異同】

0. **寄進の定義**: 取消不能な財産の寄付。その収益を寄付者の家族や慈善・宗教的な目的に支給する。寄付者や国家から独立した経営体をつくる。以上の3つの条件のいずれかを含むものを対象とする。

1. **用語**: キリスト教とイスラームおよび日本中世では、寄進財は神(仏)に帰属すると考え、中国では寄進された場合でも財の所有権は人間の手に残ると考えた。

2. **寄進財**: 多くは不動産であるが、ワクフや日本中世では現金の寄進もあり、利子が受益者の収入となった。

3. **受益者**: ワクフ(アラブ、トルコ)、日本中世、中国(中近世)では、寄進者の家族も受益者となった。ビザンツ、イラン、中央アジアでは、寄進者の家族・子孫は、寄進財の管財人となることで収入をえた。

4. **法と手続き**: 教会法、ビザンツ法(勅令)、イスラーム法は、寄進についての規程をもつが、中国と日本中世では、寄進に関する実定法をもたない。

5. **寄進の盛行**: 西欧では12-13世紀に、死後の魂の救済(祈祷、**memoria**)を目的とする寄進が広がった。ビザンツでは、5世紀に盛行がみられ、イスラーム(アラブ)では11-15世紀に都市を中心にワクフが流行した。11世紀のビザンツ社会では耕作地の約2/3が宗教施設の寄進財となっていたという推計がある。15世紀エジプトでは農村の41%が、16世紀のアナトリアでは税収の約15%がワクフとなっていた。寄進の背景には、都市(市場)経済の浸透があり、寄進財は経済インフラとなるとともに、困窮者の救済にも用いられた。日本中世では、もっぱら土地所有権を他者の侵害から守るために、寺社や上級者への寄進が盛行した。

6. **寄進の基本パターン**: ワクフ(とくにアラブ地域)や日本中世では、家族・子孫への財の継承が大きな目的となっていた。日本では、財は家産とされ、家長相続が原則であった。他方、イスラーム法では、分割相続が原則であり、それゆえに、ワクフは財の細分化を防ぐ方策となった。

7. **社会関係の生成**: 寄進者と受益者の間に、物質的・精神的保護関係が生じるとともに(西欧、イスラーム、日本中世)、水平的・互助的な関係も生じた(中国、日本中世)。寄進財の免税が財政上の問題となり(ビザンツ、オスマン、日本中世)、他方で、農村の財が都市施設に還流されることとなった(アラブ、中央アジア)。

8. **寄進の目的**: アンケートで提示した4つの個人的動機(救済のための善行、名声、墓所、財の継承)と3つの社会的利益(宗教・社会施設、慈善、経済的インフラ)はいずれの地域でも確認できる。ビザンツ、アラブ、日本では、4つの個人的動機がいずれも強く確認される。社会的利益については、慈善の要因が、西欧、アラブ、オスマン、中央アジアで強い。いずれにしても、寄進の動機・目的はいずれかに限定されるものではなく、個人的動機と社会的利益が混淆されているところに特徴があり、利己的であり利他的であるところが、寄進の魅力となっていた。

9. **寄進者の子孫の利益**: 家族(子孫)を受益者とする家族ワクフは、イスラーム地域に特有の寄進であると考えてきたが、西欧でもビザンツでも寄進者の子孫を受益者に設定することはでき、また、中国における族産は一族内の互助や融資の役割を果たした。他方で、オスマン帝国下のアナトリアやバルカンでは、農地の私有が認められないため、ワクフ寄進も不可能であり、イランや中央アジアでは家族ワクフの例は少ない。

10. **寄進の正当化**: 西欧では、キリスト教にもとづく慈善や救済の概念が、寄進を後押ししたが、ビザンツ帝国ではより実利的な思考法が強かった。中国では、同族外に寄進をするための理由付けが必要であった。

11. **経営**: 寄進財の管理・運営は、管財組織または管財人に委任され(西欧、ビザンツ、イスラーム、中国、日本中世)、寄進者は管財人を指名することもできた。ビザンツ帝国では、管財組織が法人格をもって独立性を保持し、さらに経営危機に陥った宗教施設を統合し特定の市民に経営を委託するシステムが生まれた。

12. **国家の関与**: いずれの地域においても、国家が直接的に寄進財やその経営に介入することは

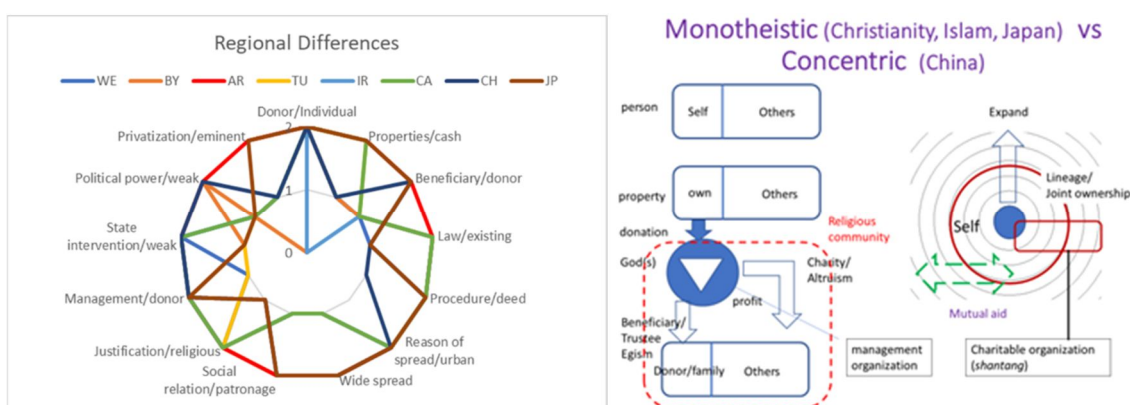
なかった。他方で、ビザンツ帝国や日本中世では、免税特権が賦与されることがあった。オスマン帝国では、国家の徴税権（収入）そのものがワクフとして寄進され、国家の側で管理されることがあった。ワクフにおいて、管財人の不正などがイスラーム法廷に持ち込まれることがあり、日本中世においても、寄進財をめぐる紛争が朝廷や幕府に上訴されることがあった。

**13. 政治的・社会的権力の獲得**：日本中世において、寺社の荘園は強い力をもち、他方で、地域の共同体は、地方領主に対抗するために中央の権力と結び付くこともあった。

**14. 寄進財の私物化**：管財人などによる寄進財の私物化はいずれの地域にもみられた。イスラーム法では、寄進財の用益権の賃貸や売買が可能であったため、管財人などが用益権をつかって蓄財し、さらには私物化する事例が起こった。

### 【地域間の近似性：寄進比較の仮説モデル】

以上の異同をふまえ、8つの地域の寄進を比較し、総括するため、13の項目を指標とし、アラブ地域のワクフを基準として、そこからの差異を点数化した（アラブ地域を2点とし、差異がなければ2点、差異がある場合はその度合いによって0ないし1点とした）。総得点は、アラブ地域が満点（26点）、つづいて日本中世（22点）、ビザンツ帝国と中央アジアが21点と近似性が強く、その共通点として、寄進者の一族への財の継承という要因が強いことが挙げられる。他方同じイスラーム地域でも、トルコ（オスマン帝国、19点）とイラン（19点）のほうがアラブ地域のワクフと距離があるという結果となった。（左下の図参照）



指標項目： 寄進者：個人か 寄進財：現金は可能か 受益者：寄進者は可能か 法規定があるか  
 手続き：文書か 盛行の理由：都市経済 盛行の度合い 社会関係：パトロネージの有無 正当化：宗教性  
 経営：寄進者の参画 国家の介入：弱いか 政治権力をもったか 私物化の有無

また、自・他の意識という問題について、つぎのことを指摘することができる。中国では、自と他は、同心円状に結ばれた存在として意識され、寄進もまた「他人」を助けるというよりは、一種の自我の拡大といった感覚に支えられ、宗族のなかでも、またそれが拡大する形で宗族外を対象とする善挙も行われる傾向があった。これに対し、キリスト教やイスラーム地域、あるいは日本中世でも、個人の所有権は強く、その財を他の目的に用いるためには、神への寄進という形をとって、元の所有者と切り離す必要があった（右上の図参照）。

### 【近現代の変化】

近代のイスラーム地域において、ワクフ制度は改革された。家族ワクフは廃止され、慈善ワクフが、国家の管理下で存続した。英国植民地統治下の東南アジアと南アジアでは、宗教施設に対する慈善ワクフ制度が創出された。他方で、家族ワクフは、所有権の移動を停止するため資本主義的経済発展に適さないと批判された。この改革によって、利己的であり利他的であるというワクフの目的が、慈善（利他）に制限されることとなった。

諸地域の寄進を通観すると、利己的な利益と利他的な利益のバランスをどうとるかのという戦略の違いが見受けられる。しかしながら、どの地域の寄進も、利己的・利他的な要素をもち、市場経済の進展を支え、セーフティネットの役割を果たしてきた。もし、近代資本主義経済が、利己と利他の分離に立脚するものであるとすれば、両者の混淆に立脚する宗教寄進もまた終焉せざるをえないことになる。以上はひとつの仮説であり、それぞれの地域における近現代の変化について、さらなる研究をまちたい。

### 【成果の公表】

本総括研究集会での全発表スライドは電子版 **Proceedings** として編集した。

**2020** シンガポール会議および **2022** 東京総括研究集会での発表をもとに総括的な論集を編集し、東洋文庫英文論叢シリーズとして、**2023** 年度に刊行する予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 近藤信彰	4. 巻 別冊
2. 論文標題 サファヴィー朝期シャイフ・サフィー廟の管財人とワクフ財	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ言語文化研究	6. 最初と最後の頁 197-212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/11734	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nobuaki Kondo	4. 巻 64
2. 論文標題 Conditional Sales and Other Types of Loans in Qajar Iran	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Economic and Social History of the Orient	6. 最初と最後の頁 615-639
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/15685209-12341548	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 岸本美緒	4. 巻 2021年 2期
2. 論文標題 民間契約与国家干預：明清時代的“契約正義”問題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国経済史研究	6. 最初と最後の頁 5 - 18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 磯貝 健一	4. 巻 89
2. 論文標題 遺産の共有：19世紀後半から20世紀初頭中央アジアの家族と家産継承	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 87-116
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 岩崎 葉子	4. 巻 第60巻4号
2. 論文標題 イランにおける同業者組合制度－競争制限的な事業者団体の不在と市場の公正性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.60.4_2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Toru Miura	4. 巻 26
2. 論文標題 Transregional Comparison of the Waqf and Similar Donations in Human History	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Intellectual Discourse, Special Issue on Waqf	6. 最初と最後の頁 1007-1023
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 54
2. 論文標題 Father 's Will, Daughter 's Waqf: A Testamentary Waqf and Its Female Founder/Administrator in Fourteenth-Century Egypt	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Orient	6. 最初と最後の頁 41-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 巻 82
2. 論文標題 Waqf-endowment Strategy of a Mamluk Military Man: The Contexts, Motives, and Purposes of the Endowments of Qijmas al-Ishaqi(d. 1487)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Bulletin of the School of Oriental and African Studies	6. 最初と最後の頁 25-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0041977X18001519	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大月康弘	4. 巻 10
2. 論文標題 ビザンツ帝国と中世地中海世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 西洋中世研究	6. 最初と最後の頁 2-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuhiro Otsuki	4. 巻 6
2. 論文標題 Byzantine Emperor's Concept of the World: On Constantine VII's De administrando Imperio	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Euromediterranean Phenomena / Historical, Economic and Social Observatory	6. 最初と最後の頁 3-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 岸本美緒	4. 巻 806
2. 論文標題 清代中期の飢饉救済と曠地問題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 68 - 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一樹	4. 巻 209
2. 論文標題 金石文・木札からひらく地下文書論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アジア遊学 (中世地下文書の世界)	6. 最初と最後の頁 247- 260
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計25件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Creating World History through the Cross-cultural and Comparative Study of Foundations
3. 学会等名 Conference on “ Interreligious Founding ”, Humboldt University of Berlin (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Comparative Perspectives on Donation and Endowment by Japanese Research Team
3. 学会等名 Strategy of Donation (Endowment): Its Purposes and Social Benefits in a Comparative Perspective (On-Line Symposium), Toyo Bunko (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Mio Kishimoto
2. 発表標題 What is the “Self”? : The Expanded Ego and Charity Movements in Early Modern China
3. 学会等名 Strategy of Donation (Endowment): Its Purposes and Social Benefits in a Comparative Perspective (On-Line Symposium), Toyo Bunko (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Shi'ite Waqfs in Early Modern Iran: An Islamic Variant?
3. 学会等名 Strategy of Donation (Endowment): Its Purposes and Social Benefits in a Comparative Perspective (On-Line Symposium), Toyo Bunko (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五十嵐大介
2. 発表標題 マムルーク朝制度史研究からワクフ研究へ
3. 学会等名 科研費学術領域研究A「イスラーム経済のモビリティと普遍性（研究代表者・長岡慎介）」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯貝健一
2. 発表標題 反訴（daf'）に関連するファトワー文書
3. 学会等名 第20回中央アジア古文書研究セミナー、京都大学大学院文学研究科附属羽田記念館
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Socio-political Changes among the Ulama in 16th Century Damascus
3. 学会等名 The Second Conference on the Mamluk-Ottoman Transition: Continuity and Change in Egypt and Bilad al-Sham in the Sixteenth Century, University of Bonn, April 12-14, 2019. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Triangular Comparative History of Japan, China and Middle East: Waqf and Kishin Donation in Premodern Times
3. 学会等名 The 11th International Iraqi Japanese Conference: An academic Bridge between Iraq and Japan through Area Studies, organized by Baghdad University, Embassy of Japan in Iraq, Baghdad (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Beyond the City: Perspectives from Urban Studies in Japan
3. 学会等名 Conference on the City in Muslim World, Rabat, Royal Academy of Morocco (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Keynote Speech and Closing Remarks: Comparative Study of the Donation
3. 学会等名 A Joint Symposium by Asian Research Institute and the Toyo Bunko, Cross-Cultural and Comparative Study of Donation, Endowment and Benefit, National University of Singapore (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 Ilm al-siyāq and Mostowfis in Early Modern Iran
3. 学会等名 All-Japan&Exeter Joint Workshop. "Knowledge as Power: Production, Control, and Manipulation of Knowledge in Muslim Societies." the Institute for Advanced Studies on Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 近藤 信彰
2. 発表標題 ガージャール朝『王室財産・ワクフ財台帳』の再検討
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯貝 健一
2. 発表標題 16世紀後半中央アジアのマドラサ・カリキュラム
3. 学会等名 第82回羽田記念館定例講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯貝 健一
2. 発表標題 ロシア帝国領中央アジアのシャリーア法廷判決台帳：その意義と史料としての特性
3. 学会等名 法制史学会東京部会第277回例会（東京大学東洋文化研究所）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kentaro Matsubara
2. 発表標題 Fictitious Ancestors, Fictitious Marriages, and Fictitious Governments: Death and Lineage in Qing South China
3. 学会等名 A Joint Symposium by Asia Research Institute, National University of Singapore and Toyo Bunko (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Nobuaki Kondo
2. 発表標題 'Conditional Sales' and Other Types of Loans in Qajar Iran
3. 学会等名 Transactions and Documentation in the Persianate World (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoki Okawara
2. 発表標題 Brief Introduction of the project 'Japanese translation of Mecelle'
3. 学会等名 Legal Translations in 19th and early 20th Century Japan, China, and the Ottoman Empire (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯貝健一
2. 発表標題 法廷に持ち込まれた「家族」の問題、または、「家族」内の紛争 ロシア帝国領中央アジアのファトワー文書を材料とした試論
3. 学会等名 近代中央ユーラシア比較法制度史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Toru Miura
2. 発表標題 Transregional Comparison of the Waqf and Similar Donation in Human History
3. 学会等名 International Conference on History and Government of Awqaf (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kentaro Matsubara
2. 発表標題 Ancestral Estates and Colonial Law: Property Management through Ancestral Rituals and its Regulation in Hong Kong
3. 学会等名 International Conference on History and Government of Awqaf (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Daisuke Igarashi
2. 発表標題 Father's Will, Daughter's Waqf: Tatar Khan bint Tashtamur, a Female Waqf Founder/Administrator
3. 学会等名 Fourth Conference of the School of Mamluk Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計25件

1. 著者名 三浦徹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 校正中
3. 書名 岩波講座世界歴史9 ヨーロッパと西アジアの変容11～15世紀(宗教寄進のストラテジー)	

1. 著者名 三浦徹	4. 発行年 2022年
2. 出版社 筑波大学西アジア文明研究センター	5. 総ページ数 320(291-308)
3. 書名 都市文明の本質 研究成果報告2021年度(都市社会の連続性 西アジアの古代とイスラームそして中世のイタリアと日本の比較)	

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Leiden: Brill	5. 総ページ数 384(277-291)
3. 書名 Amalia Levanoni (ed.), Egypt and Syria under Mamluk Rule: Political, Social and Cultural Aspects (Waqf as a Means of Securing Financial Assets: The "Self-Benefiting Waqf" in Mamluk Egypt and Syria)	

1. 著者名 大河原知樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 旬報社	5. 総ページ数 591(419-455)
3. 書名 島田弦・桑原尚子(編著)多様な法世界における法整備支援(イスラーム財産法・手続法の「法典化」:メ ジェッレ(オスマン民法典)を中心に)	

1. 著者名 岸本美緒	4. 発行年 2021年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 354
3. 書名 『史学史管見 明清史論集4』	

1. 著者名 高橋一樹	4. 発行年 2021年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 566(371-397)
3. 書名 春田直紀・新井由紀夫編 歴史的世界へのアプローチ(日本中世の土地証書類にみる文書の作成・機能と 時間認識)	

1. 著者名 大月康弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 494(286-356)
3. 書名 世界歴史大系イタリア史 第1巻古代・初期中世(第6章古代末期から中世へ 1.専制君主政下のイタリア 2.東ゴート支配下のイタリア5.ビザンツ帝国とイタリア)	

1. 著者名 MIURA Toru & SATO Kentaro ed.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Toyo Bunko	5. 総ページ数 x+297p.
3. 書名 The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries, Prat II (TBRL 22),	

1. 著者名 林 佳世子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 八旗文化	5. 総ページ数 431
3. 書名 鄂圖曼帝國五百年の和平：跳脱土耳其視角の非伊斯蘭帝國	

1. 著者名 リウトブランド（大月康弘訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 知泉書館	5. 総ページ数 247
3. 書名 コンスタンティノーブル使節記	

1. 著者名 高橋一樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 高志書院	5. 総ページ数 353 (9-35)
3. 書名 矢田俊文編『戦国期文書論』（「中世前期における書状のコミュニケーション論的考察」）	



1. 著者名 高橋一樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 402 ( 382-393 )
3. 書名 小島道裕・田中大喜・荒木和憲編『古文書の様式と国際比較』（「文書実践としての中世文書史」）	

1. 著者名 大河原知樹・堀井聡江編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東北大学大学院国際文化研究科	5. 総ページ数 43
3. 書名 オスマン民法典（メジェッレ）の研究：保証編・債務引受編	

1. 著者名 岸本美緒	4. 発行年 2019年
2. 出版社 （公財）東洋文庫	5. 総ページ数 432 ( 277 - 319 )
3. 書名 中国近世法制史料読解ハンドブック（契約文書）	

1. 著者名 Miura Toru ed..	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Toyo Bunko	5. 総ページ数 278
3. 書名 Comparative Study of the Waqf from the East Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations	

1. 著者名 Miura Toru	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Toyo Bunko	5. 総ページ数 278 (263-274)
3. 書名 Comparative Study of the Waqf from the East Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations (Transregional Comparison of the Waqf in Pre-modern Times: Japan, China, and Syria)	

1. 著者名 Takahashi Kazuki	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Toyo Bunko	5. 総ページ数 278 (131-140)
3. 書名 Comparative Study of the Waqf from the East Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations (Commendation of Land in Medieval Japan and Its Social Function)	

1. 著者名 Kondo Nobuaki	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Toyo Bunko	5. 総ページ数 278 (3-25)
3. 書名 Comparative Study of the Waqf from the East Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations (State and Shrine in Iran: Waqf Administration of the Shah ;Abd al-Azim Shrine under the Qajars)	

1. 著者名 Isogai Kenichi	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Toyo Bunko	5. 総ページ数 278 (41-61)
3. 書名 Comparative Study of the Waqf from the East Dynamism of Norm and Practices in Religious and Familial Donations (Waqf as a Device for Sustaining and Promoting Education: A Case from Pre-modern Central Asia)	

1. 著者名 Toru Miura	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Leiden: Brill	5. 総ページ数 303 (266-291)
3. 書名 Legal Documents as Sources for the History of Muslim Societies. Studies in Honour of Rudolph Peters (A Comparative Study of Contract Documents: Ottoman Syria, Qajar Iran, Central Asia, Qin China and Tokugawa Japan)	

1. 著者名 Daisuke Igarashi	4. 発行年 2017年
2. 出版社 Leiden: Brill	5. 総ページ数 448 (115-142)
3. 書名 Developing Perspectives in Mamluk History: Essays in Honor of Amalia Levanoni (The Office of the Ustadar al-Aliya in the Circassian Mamluk Era)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	五十嵐 大介  (Igarashi Daisuke)  (20508907)	早稲田大学・文学学術院・准教授   (32689)	
研究分担者	林 佳世子  (Hayashi Kayoko)  (30208615)	東京外国語大学・その他部局等・学長   (12603)	
研究分担者	磯貝 健一  (Isogai Ken'ichi)  (40351259)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員   (72622)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	大河原 知樹 (Okawara Tomoki) (60374980)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員  (72622)	
研究分担者	大月 康弘 (Otsuki Yasuhiro) (70223873)	一橋大学・大学院経済学研究科・教授  (12613)	
研究分担者	岸本 美緒 (Kishimoto Mio) (80126135)	公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員  (72622)	
研究分担者	高橋 一樹 (Kazuki Takahashi) (80300680)	明治大学・文学部・専任教授  (32682)	
研究分担者	近藤 信彰 (Kondo Nobuaki) (90274993)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授  (12603)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	松原 健太郎 (Matsubara Kentaro) (20242068)	東京大学・法学研究科・教授  (12601)	
連携研究者	岩崎 葉子 (Iwasaki Yoko) (40450481)	日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・研究員  (82512)	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 Strategy of Donation (Endowment): Its Purposes and Social Benefits in a Comparative Perspective	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Joint-Symposium of ARI-NUS(Singapore) and Toyo Bunko (Tokyo), Cross-cultural and Comparative Study of Donation, Endowment and Benefit	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Encounter of Comparative Studies on Endowment in Europe and Japan	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 International Conference on History and Government of Awqaf	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	MMSH, Aix-Marseille University			
ドイツ	Humboldt University of Berlin			
シンガポール	National University of Singapore	Asia Research Institute		
マレーシア	International Islamic Univ. Malaysia			